

学校体育の課題と努力事項

小学校体育

小学校体育科では、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ことを目指している。

授業の実践に当たっては、全ての児童が運動の特性や魅力、発達の段階に応じた楽しさや喜びを味わいながら、自己の伸びや成果を積み重ねていく学習を展開することが重要である。そのために、各単位時間のつながりを意識した学習過程を編成し、指導内容の明確化や指導と評価の一体化を図り、魅力ある教材を設定して毎時間の授業の充実を図っていくこと。加えて、授業者の教師行動にも留意することが重要である。

そして、「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」を日々実践していくことで、運動好きな児童を育てていきたい。

令和4年度の課題

- 1 学習指導の改善と充実
- 2 運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫
- 3 体育的活動時の事故防止及び学習規律の確立

1 学習指導について

成果

- (1)「小学校体育に関する調査」から
- 授業実践後、次年度に向けて指導計画の修正をしている学校 694校(100%)
 - 单元ごとの具体的な指導計画を作成している学校 70.7% (昨年度 70.3%)
 - 单元の評価規準を作成している学校 79.5% (昨年度 78.0%)
- ※内容のまとまりごとの評価規準作成状況は100%
- (2)「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から
- 【学校質問紙】
- 授業の冒頭で、その授業の目標(めあて・ねらい等)を示している。 本県 99.2% (全国 97.7%)
 - 授業の最後に、その授業で学習したことをふり返っている。 本県 99.4% (全国 94.4%)
 - 児童同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れている。 本県 99.0% (全国 97.3%)
- 【児童質問紙】
- 体育の授業では、進んで学習に参加しているか。 本県男子 94.0% (全国 93.1%) 本県女子 92.8% (全国 91.3%)
 - 体育の授業は、生活を健康で明るいものにする。 本県男子 91.7% (全国 91.5%) 本県女子 89.7% (全国 89.3%)

(3)「令和4年度小学校体育授業研究会」等から

- 1単位時間のねらいを明確にした授業、運動量を確保し、思考して表現する場面、仲間と関わる場面等のバランスを確保した授業が多く見られた。
- ICT機器を目的に応じて、効果的に効率よく活用している授業が見られた。

現状

「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から【体力合計点及び児童質問紙】

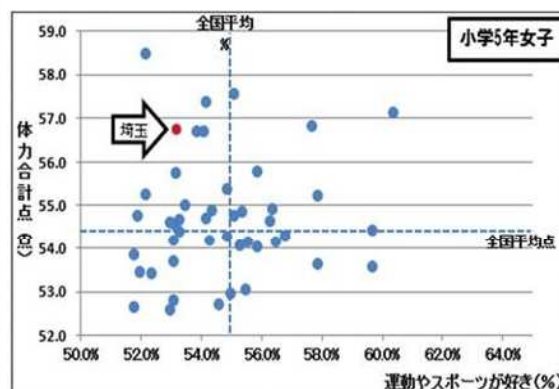
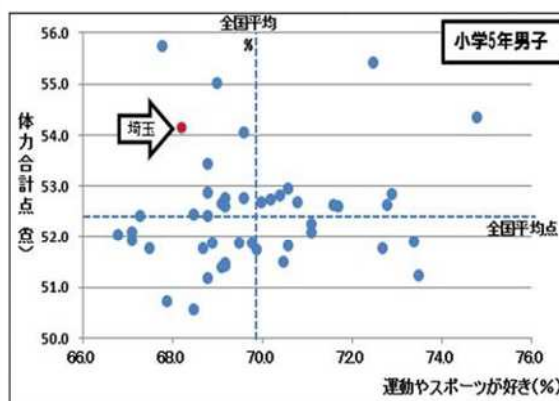


図1 体力合計点と運動・スポーツ好意度の関係

課題

(1)学習指導のさらなる改善と充実

- 各単位時間のつながりを意識した学習過程を編成する。
 - ・育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った指導内容をバランスよく配置する。
 - ・児童が学習する意欲を持続した状態から、自ら課題を見付け、その解決に取り組めるように編成する。
- 指導内容の明確化を図る。
- 指導と評価の一体化を図る。
- 魅力ある教材を設定する。
- 授業者の教師行動の工夫を図る。

2 児童の体力等について

成果

「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から
 ○体力合計点（スポーツ庁が示す基準に基づき、年齢と項目別の記録に応じて点数化した8項目の合計点の平均）
 本県男子54.1(全国52.2) 本県女子56.7(全国54.3)
 「新体力テスト及び令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から
 ○体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている。
 本県男子77.2%(全国74.0%) 本県女子75.9%(全国72.2%)

現状

「令和4年度新体力テスト」から

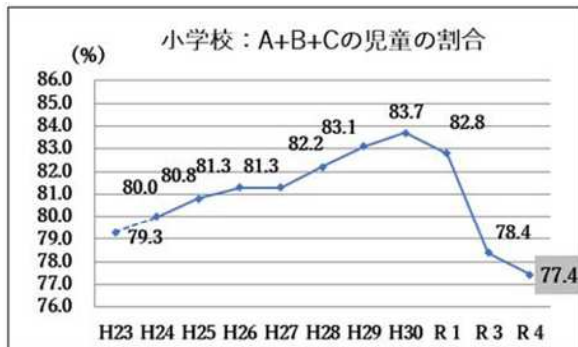


図2 新体力テスト総合評価A+B+Cの割合

「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から

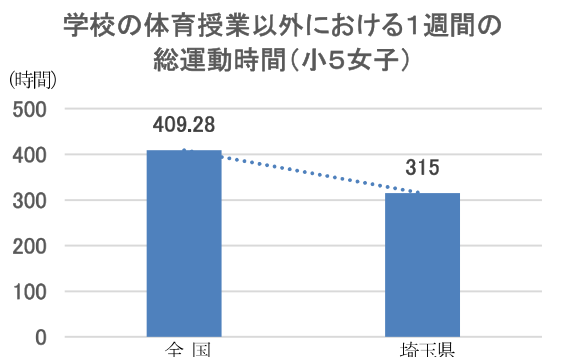
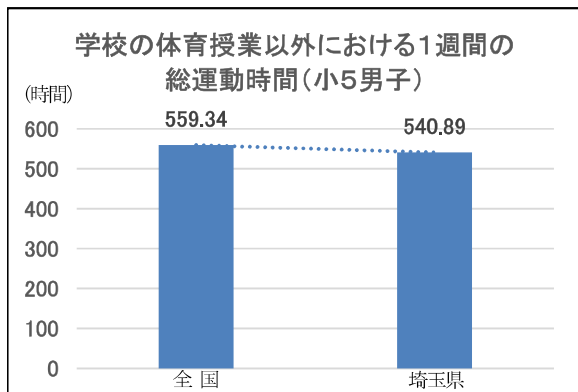


図3 学校の体育授業以外における1週間の総運動時間(小5男子・女子)

課題

(1)運動する機会の確保と運動に親しむ取組のさらなる工夫

○学校の教育活動全体を通じて、意図的な運動の機会を捻出、設定し、休み時間等の日常的な運動の機会を確保し、運動好きな児童を育てる取組をより一層工夫する。

3 体育的活動時の事故について

現状

(令和2年度比)

「独立行政法人日本スポーツ振興センター資料」から
 ○R3の体育的活動の事故件数 5,750件(641件増)
 ○R3の体育授業中の事故件数 5,403件(576件増)
 ○学校管理下の事故における体育的活動の事故の割合 36.6%(0.8p減)
 ○体育的活動の事故における体育授業中の事故の割合 93.9%(0.7p減)



図4 R3 小学校体育授業中の事故件数の推移

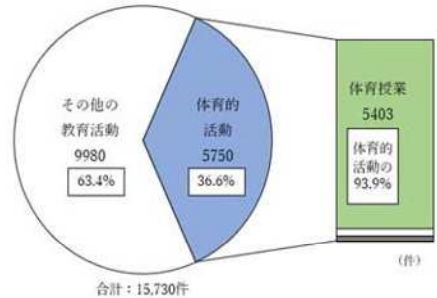


図5 R3 小学校学校管理下の事故件数(災害申請件数)

課題

(1)継続的に取り組む体育的活動時の事故防止及び学習規律の確立

○危機管理体制の確立

・事故の未然防止策と発生時の適切な初期対応及び全教職員の役割分担等を明確にし、マニュアルに示すとともに共通理解を図る。そして、「体育授業・運動部活動における事故防止の5則」を徹底する。

○学習規律の確立及び安全に留意する態度の育成

・適度な緊張感のある、よい雰囲気の中で、効率よく集中して学習に取り組めるように、学習指導要領の「学びに向かう力、人間性等」の安全の内容について継続的に指導・評価を行う。

以上のことから、本年度の課題を次のとおりとする。

令和5年度の課題

- 1 学習指導のさらなる改善と充実
- 2 運動する機会の確保と運動に親しむ取組のさらなる工夫
- 3 継続的に取り組む体育的活動時の事故防止及び学習規律の確立

令和5年度の課題と努力事項

令和2年度から全面実施となった学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力をバランスよく育む授業の実践が求められている。そのためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や指導と評価の一体化を図りながら、より

質の高い学びを実現することが重要である。

また、体育授業を核としながらも、学校教育活動全体を通じて、運動する機会を確保し、運動に親しむ取組の工夫をしながら、運動好きな児童を育成することも重要である。

以下に、令和5年度の三つの課題について、その改善のための方策を記す。

課題1

学習指導のさらなる改善と充実

ポイント

埼玉県の小学校体育科の課題は、児童の体力や運動技能は全国平均と比較しても高い状況でありながら、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と感じている児童の割合が全国平均以下ということである。(p12図1参照)
この課題を解決するためには、日々の学習指導を見直し、学習指導のさらなる改善と充実を図っていくことが不可欠である。その視点として、授業を計画していく上での基本的な考え方を示す。

努力事項1：各単位時間のつながりを意識した学習過程を編成

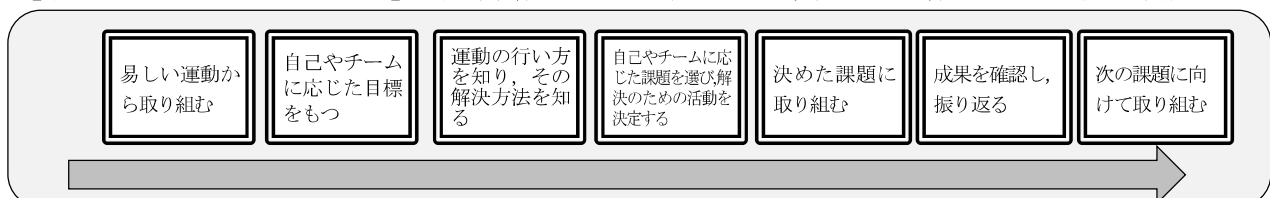
「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善は、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元全体を見通して改善を進めていくことが重要である。つまり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を考えることは、単元における学びのプロセスをどのように捉え、指導場面や評価機会をどのように構成するかということである。特に、単元のゴール像を明確にした上で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、体育科で育成を目指す資質・能力を児童に育てていくことが大切である。



【運動好きな児童生徒育成のための単元計画作成に向けたリーフレット（小学校版）】

リーフレット1 ページ目	リーフレット2 ページ目	リーフレット3 ページ目
<p>○単元を計画する前に必ず確認しておくべきことが記載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性や魅力とは？ ・授業する児童達の実態は？ ・この領域で目指す学習のゴール像は？ ・体育授業で運動好きな児童を育成していく手立ては？ 	<p>○単元を計画していく時のポイントが記載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元前半（出会う）場面のポイント ・単元中盤（知って・考えて・高め合う）場面のポイント ・単元後半（振り返る）場面のポイント ・三つの資質・能力をバランスよく配置するためのポイント 	<p>○単元計画（指導と評価の計画）例が、P2「単元計画作成のポイント」とリンクさせながら記載されている。</p> <p>運動好きな児童生徒育成のためのリーフレット R4.3 埼玉県教育委員会</p>

【単元における学びのプロセス例】 ※中央教育審議会答申別添資料12-3「運動領域における学習過程のイメージ」より抜粋



【(リーフレット2ページ目) 単元計画(指導と評価の計画)作成のポイント】※単元のねらいやポイントは樹であり、これに限定されるものではない。

段階	出会う	知って	考えて	高め合う	振り返る
ねらい 指導内容	◎各単位時間のつながりを意識しながら、「いつ」「何を」「どのように」指導するのかを明確にします。				
学習過程	◎「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を、単元を通してバランスよく配置します。				
	 <p>◎教材と出会う ・誰もができる易しい運動の提示 ・目指す動きの演示</p> <p>◎学習への見通しをもったり、学習の約束を知ったりする ・育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた単元のゴール像の提示 ・安全な行い方</p> <p>◎自己やチームの力を知る ・試しの運動やゲーム</p>	<p>◎本時のねらいを知る</p> <p>◎感覚づくりの運動をする</p> <p>◎運動の行い方(動きのポイントや活動の仕方)を知る ◎課題解決の方法を知る ・教師による示範や児童による演示 ・ICT 機器や学習資料の活用</p> <p>共通の課題を中心に学習を進め、これらの着実な定着を図ります。</p>  <p>試しの運動・ゲームを行うなど、実際に動くことを大切にします。</p>	<p>◎自己やチームの課題を見付ける ・よい動きとの比較 ・ペアやグループでの見合い</p> <p>個別最適な学びや協働的な学び、ICT 機器の活用から「課題把握→課題解決→新たな課題設定」のサイクルを繰り返します。</p> <p>◎課題解決に取り組む ・繰り返し取り組める場や課題に応じた場(スモールステップ)の設定 ・達成(できたと捉える)基準の明確化</p>	<p>育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って、自己やチームの学びの状況を振り返ります。</p> <p>◎自己やチームの変容に気付く ・単元前後の比較 ・記録会、発表会等 ・個人やチームでの振り返り</p> <p>◎自己やチームの振り返り</p>	
評価計画	知・技	◎「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を、単元を通して適切な機会に配置します。			
	思・判断	◎1 単位時間に評価する項目は、原則一つとし、指導したことを評価します。			
	方法	◎「いつ」「何を」「どの活動で」「どのように」評価するのかわりに整理します。評価の方法としては、観察、発問、発表、学習カード、ICT 機器などが考えられます。			
	場面				

児童が
・楽しい
・やってみたい
・勝ちたい
・もっとうまくなりたい
などの思いや願いをもてるように、教材との出合わせ方を工夫します。

単元の前半に評価の機会を設定した項目においてBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるような指導の充実を図ることが本来の評価の在り方です。

努力事項2：指導内容の明確化

指導内容とは、教師が児童に対して指導する内容(本時のねらい)を意味する。ところで小学校体育科においては、検定済の教科書が存在していない。よって教科書に対応する指導書の存在もない。つまり、体育科で指導する内容は、直接、小学校学習指導要領体育編(平成29年、文部科学省)を参照することになる。そして、教師が指導する内容は、評価をすることも求められる。そこで、「指導内容を明確にする」必要性について以下の表で整理する。(表1:「指導内容を明確にする」必要性)



	教師サイド	児童サイド
指導内容を絞る	指導内容を 絞る ことで、重点的に指導することができる。	ねらいが 絞られる ことで、めあてが明確になり、授業で目標にすることが分かる。
指導内容を繋ぐ	指導内容を 繋ぐ ことで、関連した指導をすることができる。	毎時間学習している内容に 繋が り意識し、学習内容に必要感をもって臨むことができる。
指導した内容を褒める	指導した内容を具体的に 褒める ことができる。	学習したことを先生から 褒められる ことで、運動することに前向きに取り組むことができる。

努力事項3：指導と評価の一体化

指導と評価の計画（7時間扱い）

※中学年マット運動を例として

時	1	2	3	4	5	6	7
ねらい	場の安全を確かめよう	省略	正面を向き、体を前方へ振り下ろしながら片足を振り上げ、前方に片手をつき、腰を伸ばした姿勢で倒立位を越え、側方回転しながら片足を振り下ろして起き上がる。		省略	省略	筋
指導内容	・学習の進め方 ・準備、片付け	省略	・側方倒立回転のポイント ・ロンダートのポイント		省略	省略	筋
学習過程	3 オリエンテーションをする ・授業の約束 ・学習のねらいと進め方 ・動物進化ジャンケン ・前転運動	1 集合・整列・あいさつ・健康観察をする 2 準備運動をする					
	4 準備と片付けをする	3 感覚つくりの運動「きらり運動」					
	5 まとめをする	4 共通課題学習で技の定着を目指す（習得） 回転系 共通課題 「前転」 「後転」	倒立系 共通課題① 「壁倒立」・「補助倒立」 共通課題② 「側方倒立回転」・「ロンダート」	4 課題解決学習で技に磨きかける（活用） ・共通課題を通して習得した知識や、正確な動き方を活用して、「より美しくするためのコツ」を考えるようにする。	4 ホシリンピックをする		
評価計画	知・技 思・判・表 態 方法 場面	①・②			②	①	③・④
	②	観察・学習カード	観察・ICT 機器	観察	学習カード	ICT 機器	①
	4	4	4	4	4	4	4・6

「指導と評価の一体化」の指導とは、学習指導要領解説体育編（平成29年、文部科学省）に記載されている学習内容であり、「ねらい」のことである。そして、学習内容を評価する上で規準にするものが、「評価規準」である。つまり授業者は、①指導した内容「ねらい」を②「評価規準」に照らし合わせ③定着具合をチェック（評価）する。よって、①から③の一連の流れを「指導と評価の一体化」という。特に②の作業がポイントである。加えて、「指導と評価の一体化」は毎時間のねらいをその時間内に評価するだけにとどまらない。特に「知識及び技能」、「学びに向かう力、人間性等」のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。したがって、重点内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではないことに留意する必要がある。（文部科学省国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料令和2年、3月）

努力事項4：魅力ある教材の設定

教材とは、学習内容を育成するための手段である。体育科は、教科の特質上、運動することを通して、学習指導要領解説体育編（平成29年、文部科学省）に記載されている学習内容の育成にあたる。例えば、走り高跳びを授業する際、運動そのものをそのまま行い、全ての児童が運動の楽しさや喜びを味わうことができるだろうか。学習指導要領解説体育編（平成29年、文部科学省）には、運動に意欲的でない児童への配慮の例も示され、全ての児童へ豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することがより一層求められているため、魅力ある教材の設定が大切である。

【100%できる！わかる！魅力ある教材の設定例】

○ライン跳び	○人間跳び	○跳び箱跳び	○3歩ゴム跳び	○3・5・7歩走選手権
				

努力事項5：授業者の教師行動の工夫

体育授業を成立、充実させる条件のひとつとして「授業の雰囲気」を検討することは、重要である。「授業の雰囲気」の内容としては、①学級で肯定的な人間関係が育まれていること②情緒的な解放ができることの2点が挙げられる。体育授業において、そのような雰囲気や気持ち、関係性がどのようにして醸成されるのかのポイントは、教師の声かけである。教師がたくさん認めて誉めてくれること。教師が丁寧に具体的にアドバイスしてくれること。教師が励ましの言葉をかけてくれることなどである。加えて、児童の学びの雰囲気を創る「**教師の表情**」(ジェスチャー・話す、語る抑揚等も含める)が、最努力事項である。児童は、教師の表情を見て、更に意欲的に取り組むようになるし、見通しのある授業者は、その表情をうまく使い分けている。児童が体育授業に夢中に取り組み、一人一人が輝く授業には、多くの場合、表情豊かな授業者が傍にすることが多い。



課題2

運動する機会の確保と運動に親しむ取組のさらなる工夫

ポイント

埼玉県における児童の「学校の体育授業以外における1週間の総運動時間」は、全国の平均時間を下回っている。新型コロナウイルス感染症等の影響により、体育の授業以外で体を動かす機会が減少していることを示唆している。また、「令和4年度新体力テストの総合評価A+B+Cの割合」についても低下傾向に歯止めがかからない。(p13図2, 3参照)このような状況を改善するには、体育授業に加え、学校教育活動全体を通じて、継続した様々な工夫により運動の機会を確保し、運動に親しむ取組の工夫をしながら、運動好きな児童を育てることが重要である。

【運動に親しむ取組の例】※体力課題解決研究指定校の取組より

◎業間運動の実施



〈三郷市立彦成小学校〉

業間運動を設定し、「投力向上」と「鉄棒運動」に種目を絞り、児童の運動する機会を確保した。

体育的活動の推進

◎専門講師による運動教室の実施



〈狭山市立入間野小学校〉

「ベースボール教室」(西武ライオンズ)や「走り方教室」(箱根駅伝選手・中学校教師)を招聘して児童が運動に親しむ工夫を行った。

校内環境の整備

運動好きな児童の育成

家庭との連携

◎児童及び教員の「学びの共有化」の掲示



〈川口市立十二月田小学校〉

児童の興味をひくスポーツ選手の紹介や教員の記録の掲示をした。また、校内授業研究会の成果と課題を共有した。

運動する機会の確保 運動に親しむ取組のさらなる工夫

◎体力貯金カードの取組

名前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
アンテナ (長距離)										
アンテナ (短距離)										
アンテナ (水泳)										
アンテナ (球技)										
アンテナ (その他)										

〈春日部市立空川小学校〉

児童の体力向上及び運動の習慣化を目的に、家庭学習で体力貯金カードの記入を実施した。

課題3

継続的に取り組む体育的活動時の事故防止及び学習規律の確立

平成30年度以降、体育的活動中の事故件数は減少しているものの、体育授業中の事故の割合は増加していた。ところが、令和3年度は体育授業中の事故の割合が0.7p減少した。よって、今後も継続的に体育施設や用具等の定期的な点検、体育授業時の約束事の徹底など、未然の事故防止対策を講じるとともに、事故が起こってしまった際の適切な対応について、全教職員で共通理解を図ることが重要である。そして「体育

授業・運動部活動における事故防止の5則(埼玉県教育委員会)」を参考に事故防止を徹底する。

併せて、児童自身が安全に対する意識をもって活動できるように、「学びに向かう力、人間性等」の安全の内容について、継続的に指導・評価していく。

体育授業・運動部活動における事故防止の5則

- 1 児童生徒の実態に即した指導計画の作成
- 2 施設・設備・用具などの日々の安全点検の励行
- 3 活動開始前の健康観察の実施
- 4 活動中や活動後の声掛けと安全確認
- 5 事故発生後の迅速かつ適切な対応